



Title	インプラントの形状と連結様式がインプラント頸部の骨吸収に与える影響に関する後ろ向き観察研究 [全文の要約]
Author(s)	谷口, 昭博
Citation	北海道大学. 博士(歯学) 甲第15947号
Issue Date	2024-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/92520
Type	theses (doctoral - abstract of entire text)
Note	この博士論文全文の閲覧方法については、以下のサイトをご参照ください。
Note(URL)	https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/
File Information	Akihiro_Taniguchi_summary.pdf



[Instructions for use](#)

学位論文内容の要約

学位論文題目

インプラントの形状と連結様式がインプラント
頸部の骨吸収に与える影響に関する後ろ向き観
察研究

博士の専攻分野名称 博士（歯学） 氏名 谷口 昭博

学位論文内容の要約

インプラントはきわめて高い成功率が報告されているが、一方でリスクも多数あり、原因が不明なインプラント頸部の骨吸収 (Marginal bone loss, MBL) もある。埋入初期の MBL は、長期の予後に影響を及ぼすとされており、機能開始後 1 年で 1.5mm を超える MBL が認められた症例はその後骨吸収が持続すると報告されている。したがって、初期の MBL を一定範囲に抑制することは、長期的に安定した治療成績を得るには重要と考えられる。とくに近年は、MBL に対するインプラントとアバットメントとの連結様式の影響が注目されている。POI EX (京セラ) の連結はバットジョイントであるのに対して、FINESIA (京セラ) はモーステーパージョイントで強固にインプラント体とアバットメントが連結される。さらに、FINESIA はプラットフォームシフティングやマイクロスレッドにより MBL を小さくできると考えられている。しかし、この 2 種類のインプラントの MBL の違いは不明であり、また、MBL には多様な要因が影響することから、交絡因子を調整して慎重に評価することが必要である。そこで、POI EX と FINESIA の 2 種類のインプラントを対象として、MBL に及ぼすリスク因子を、北海道大学病院生命・医学系研究倫理審査委員会の承認 (臨床研究番号: 生 022-0120) を得て後ろ向き観察研究により検討した。

対象患者は医療法人晃和会谷口歯科診療所でインプラント治療を行い、1 年以上経過観察した患者とした。調査項目は患者背景のほか、文献的に MBL に関連が報告されている要因とし、インプラント体埋入時、補綴時、機能開始 1 年後に診療情報から収集した。MBL は埋入時と 1 年後の骨レベルの差をパノラマエックス線画像から算出した。

その結果、POI EX を埋入したのは男性 56 名、女性 70 名の合計 126 名 (平均 55.0 歳)、FINESIA は男性 58 名、女性 64 名の合計 122 名 (平均 56.9 歳) であった。インプラントの種類は POI EX が 303 本、FINESIA が 277 本で、1 年後の MBL はそれぞれ 1.33 mm と 0.67 mm であった。1 年後の MBL が 1.5 mm 以上または 1.5mm 未満の 2 群に分類して、ロジスティック回帰分析を行った結果、インプラントの種類はオッズ比 10.89、95% 信頼区間 5.75-20.61、 $p < 0.001$ で有意差が認められた。これは、性別 2.26、喫煙の有無 2.75、埋入時に 5 mm 以上のプロービングデプスがある患者数 2.13 に比較して大きなオッズ比であり、FINESIA は POI EX に比較して初期 MBL のリスクが小さいことが示された。

今後は、FINESIA で初期の MBL が抑制されたことが長期予後と関連するのかを確認していくことが必要である。